

アスファルト混合物報告書

年 月 日

様

製造会社

所在地

鳥取市古海1008-2

工場名

鳥取アスコン株式会社

配合の設計条件				
混合物の種別	骨材の最大寸法	基準密度	混合温度	
再生細粒度アスコン(13)	13(mm)	2.342(g/cm ³)	160(°C)	
空隙率	飽和度	安定度	フロー値	
4.0(%)	79.3(%)	6.99(kN)	33(1/100cm)	
D S 値				
使用材料および配合表				
使用材料名	産地名	生産者名	配合率(%)	備考
再生アスファルト(60~80)	岡山県倉敷市水島	E N E O S (株)	※ 6.8	
石粉	岡山県新見市足立	足立石灰工業(株)	1.5	
砕石 5号	岡山県久米郡久米南町	坂田砕石工業(株)		
砕石 6号			11.1	
砕石 7号			3.1	
砕砂			13.6	
粗砂	佐賀県唐津市	住若海運(株)	9.0	
細砂	鳥取市伏野	(有)仁徳砂利	7.6	
再生骨材		鳥取アスコン(株)	49.80	
再生用添加剤		E N E O S (株)	0.20	RDEX
※再生アスファルト(60~80)配合率の計算 旧As=2.47(%) 再生用添加剤=0.20(%) 新As(60~80)=4.1(%) 再生アスファルト(60~80)配合率=2.47+0.20+4.1=6.8(%)				

アスファルト混合物配合設計報告書

混合物： 再生細粒度アスコン(1 3)

2024年 2月

鳥取アスコン 株式会社

アスファルト混合物配合設計総括表

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
砕石6号	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
再生骨材	鳥取アスコン株式会社	鳥取県鳥取市古海	再生骨材
砕石7号	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
砕砂	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
粗砂	住若海運株式会社	佐賀県唐津市	天然砂
細砂	有限会社仁徳砂利	鳥取市伏野	天然砂
石粉	足立石灰工業株式会社	岡山県新見市足立	石灰岩粉末
StAs(60-80)	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	STAs60-80
RDEX	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	再生用添加剤

2. 使用骨材の配合割合

材料	砕石6号	再生骨材	砕石7号	砕砂	粗砂	細砂	石粉					計
配合割合%	11.9	50.8	3.3	14.6	9.7	8.1	1.6					100.0

3. 合成粒度

ふるい目	53mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600 μ m	300	150	75
通過質量百分率%					100.0	99.9		75.0	59.0		34.7	22.8	10.1	7.5
粒度範囲	上限				100	100		80	65		40	27	20	10
	下限				100	95		65	50		25	12	8	4

4. 設計アスファルト量の決定

試験項目	最適AS量 (%)	密度 (g/cm ³)	理論密度 (g/cm ³)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー (1/100cm)	残留安定度 (%)
試験値	6.8	2.342	2.439	4.0	79.3	6.99	33	89.9
基準値	上限	8.0	—	6	85	—	40	—
	下限	6.0	—	3	70	4.90以上	20	75.0以上

※ マーシャル試験の結果はグラフより求めた値である

骨材試験成績表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

ふるい分け試験

	ふるい目の開き	砕石6号	再生骨材	砕石7号	砕砂	粗砂	細砂	石粉		
通過質量百分率%	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5									
	19	100.0								
	13.2	98.8	100.0	100.0		100.0				
	9.5									
	4.75	6.5	73.2	94.3	100.0	99.2				
	2.36		53.1	12.1	92.1	87.6	100.0			
	1.18									
	600 μm		32.4		37.5	31.5	98.9			
	300		22.3		20.4	12.2	70.4	100.0		
	150		12.1		12.0	3.5	4.1	98.0		
	75		9.1		8.8	1.0	1.1	88.2		

性状試験

試験項目		砕石6号	再生骨材	砕石7号	砕砂	粗砂	細砂	石粉		
密度	表乾	2.688	—	2.676	2.647	2.592	2.585	—		
	かさ	2.669	—	2.651	2.602	2.556	2.535	—		
	見掛	2.721	—	2.718	2.724	2.652	2.668	2.700		
吸水率 / 水分量 %		0.71	—	0.93	1.72	1.43	1.96	0.01		
すりへり減量 %		11.9	—	—	—	—	—	—		
安定性 %		0.8	—	1.4	1.5	5.3	1.5	—		
微粒分量試験 %		—	1.8	—	—	—	—	—		
軟石含有量 %		0.6	—	—	—	—	—	—		
偏平細長石片 %		1.0	—	—	—	—	—	—		
単位容積質量		1.562	—	1.502	1.752	1.665	1.547	—		
粘土塊量 %		0.03	—	—	—	—	—	—		
最大密度		—	2.514	—	—	—	—	—		
旧 A s 含有量 %		—	4.96	—	—	—	—	—		
旧 A s 針入度		—	27	—	—	—	—	—		
圧裂係数		—	1.21	—	—	—	—	—		

使用アスファルト性状表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

<使用するアスファルトの性状>

種類・品名		S t A s (6 0 - 8 0)	
項	目	試 験 値	規 格 値
針入度 (25℃)	(1/10mm)	64	60~80
軟化点	(℃)	49.0	44.0~52.0
伸度 (15℃)	(cm)	140+	100以上
トルエン可溶分	(%)	99.96	99.00以上
引火点	(℃)	374.0	260.0以上
薄膜加熱質量変化率	(%)	0.08	0.60以下
薄膜加熱針入度残留率	(%)	73.4	55.0以上
蒸発後の針入度比	(%)	102.0	110.0以下
密度 (15℃)	(g/cm ³)	1.040	1.000以上
マーシャル最適混合温度範囲	(℃)	151~156	---
マーシャル最適締固め温度範囲	(℃)	139~144	---

アスファルト混合物の配合設計

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月14日

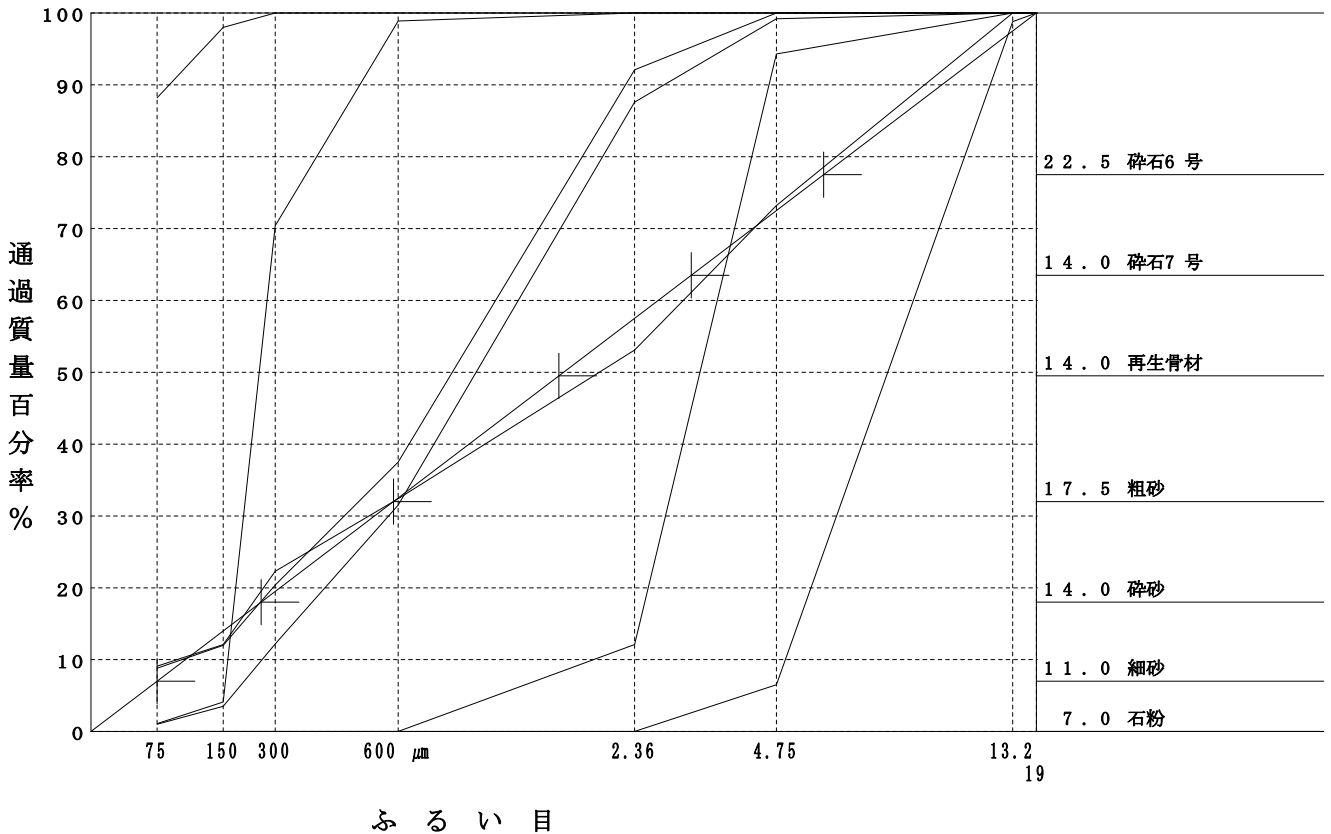
混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)							目標粒度
	砕石6号	再生骨材	砕石7号	砕砂	粗砂	細砂	石粉	
53 mm								
37.5								
31.5								
26.5								
19	100.0							100.0
13.2	98.8	100.0	100.0		100.0			97.5
9.5								
4.75	6.5	73.2	94.3	100.0	99.2			72.5
2.36		53.1	12.1	92.1	87.6	100.0		57.5
1.18								
600 μm		32.4		37.5	31.5	98.9		32.5
300		22.3		20.4	12.2	70.4	100.0	19.5
150		12.1		12.0	3.5	4.1	98.0	14.0
75		9.1		8.8	1.0	1.1	88.2	7.0

2. 使用予定骨材の配合比決定図



骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

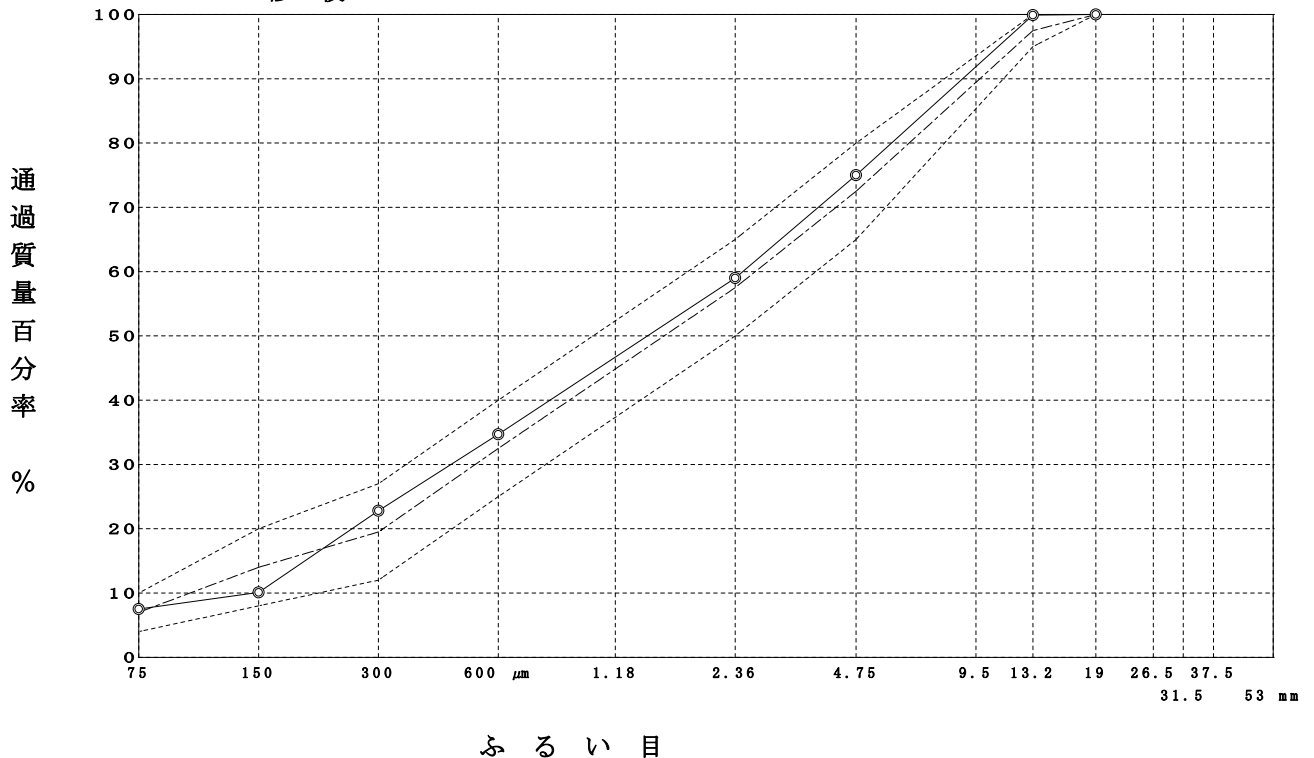
試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5				
19	100.0	100.0	100.0	100
13.2	99.7	99.9	97.5	95 ~ 100
9.5				
4.75	74.3	75.0	72.5	65 ~ 80
2.36	55.3	59.0	57.5	50 ~ 65
1.18				
600 μm	33.2	34.7	32.5	25 ~ 40
300	22.8	22.8	19.5	12 ~ 27
150	11.4	10.1	14.0	8 ~ 20
75	9.0	7.5	7.0	4 ~ 10

6. 粒径加積曲線図

..... 粒度範囲
 - - - - - 目標粒度
 ———— 修正後



設計圧裂係数への調整 (添加剤量)

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

試験項目	材料名	再生骨材			規格値
通過質量百分率 %	53 mm				
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2	100.0			
	9.5				
	4.75	73.2			
	2.36	53.1			
	1.18				
	600 μm	32.4			
	300	22.3			
	150	12.1			
75	9.1				
旧アスファルト含有率 %		4.96			3.8 以上
圧裂係数 MPa/mm		1.21			1.70 以下
微粒分量試験による損失量 %		1.8			5 以下
最大密度		2.514			

再生添加剤の性状

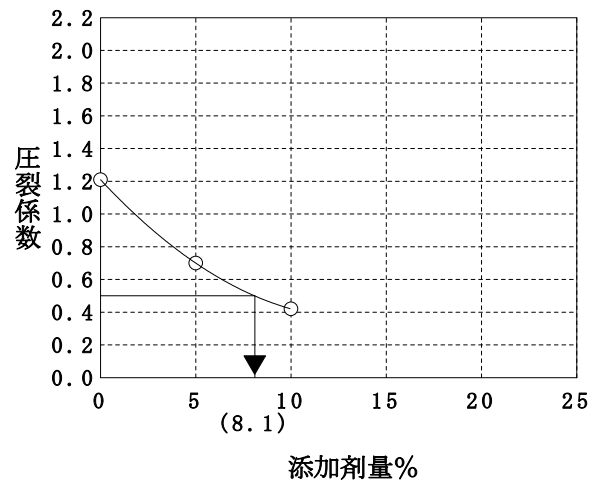
項目	試験値	標準的性状
動粘度 (60℃) mm ² /s	83.79	80~1000
引火点 ℃	260	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.03	2以下
薄膜加熱質量変化率 %	-0.91	±3%以内
密度 (15℃) g/cm ³	0.924	

<添加剤量と圧裂係数の関係>

添加剤量	0.0	5.0	10.0
圧裂係数	1.21	0.70	0.42

設計圧裂係数 0.50 (規格値 0.40 ~ 0.60)

設計圧裂係数への調整



<設計圧裂係数への調整結果>

設計添加剤量	8.1
設計添加剤量 (対混合物)	0.21

理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ					B(旧アスファルト含む)			
碎石6号	11.9					11.90			
再生骨材	50.8					53.45			
碎石7号	3.3					3.30			
砕砂	14.6					14.60			
粗砂	9.7					9.70			
細砂	8.1					8.10			
石粉	1.6					1.60			
計	100.0					102.65			
設計針入度 1/10mm									
旧アスファルト量 (外割%)					2.65				
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %					8.10				
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)					0.21				
再生アスファルト量 (%)	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0				6.8
再生アスファルト量 (外割%)	6.38	6.95	7.53	8.11	8.70				7.30
旧アスファルト量 (外割%)	2.65	2.65	2.65	2.65	2.65				2.65
再生用添加剤量 (外割%)	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21				0.21
新アスファルト量 (外割%)	3.52	4.09	4.67	5.25	5.84				4.44

理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 骨材の密度 (g/cm ³)			④ 計算に用いる密度	⑤ ②/④
		表	乾	かさ 見掛		
碎石6号	11.90	2.688	2.669	2.721	2.721	4.373
再生骨材	53.45				2.514	21.261
碎石7号	3.30	2.676	2.651	2.718	2.718	1.214
砕砂	14.60	2.647	2.602	2.724	2.724	5.360
粗砂	9.70	2.592	2.556	2.652	2.652	3.658
細砂	8.10	2.585	2.535	2.668	2.668	3.036
石粉	1.60			2.700	2.700	0.593
R D E X	0.21				0.924	0.227
Σ②=	102.86				Σ⑤=	39.722

⑥ アスファルト量 (%)	⑦ アスファルトの密度	⑧ ⑥/⑦	⑨ Σ⑤	⑩ ⑧+⑨	⑪ 理論最大密度 (Σ②+⑥)/⑩	
3.52	1.040	3.385	39.722	43.107	2.468	
4.09		3.933	39.722	43.655	2.450	
4.67		4.490	39.722	44.212	2.432	
5.25		5.048	39.722	44.770	2.415	
5.84		5.615	39.722	45.337	2.398	
4.44		4.269	39.722	43.991	2.439	

マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計 (室 内)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.040 アスファルトの温度 160 ℃ 骨材の温度 210 ℃

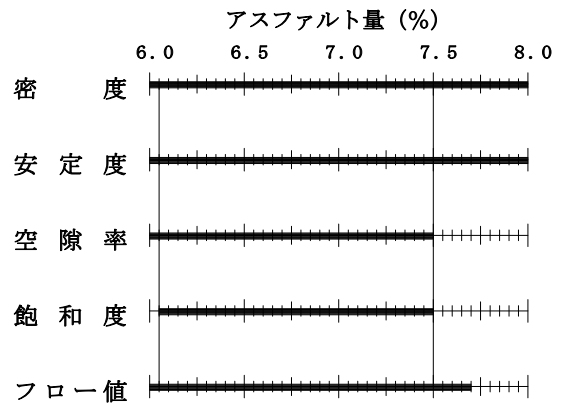
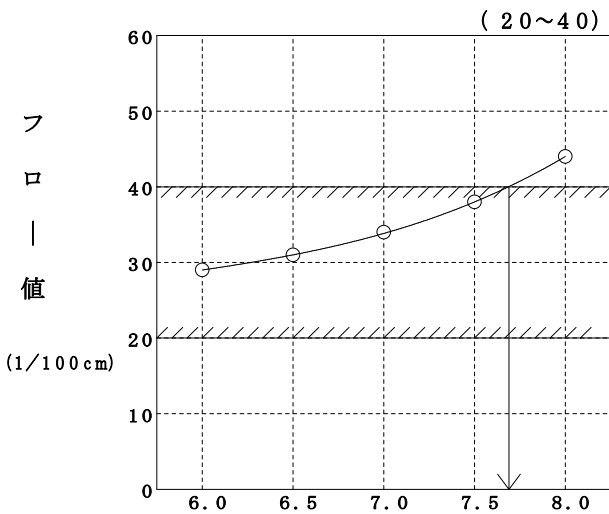
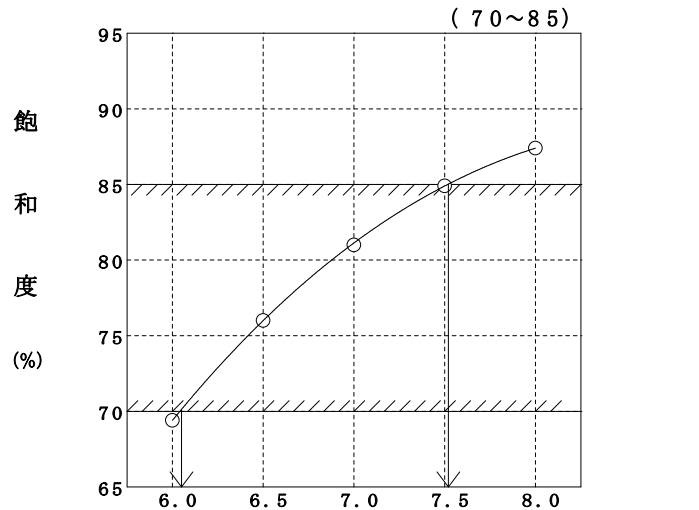
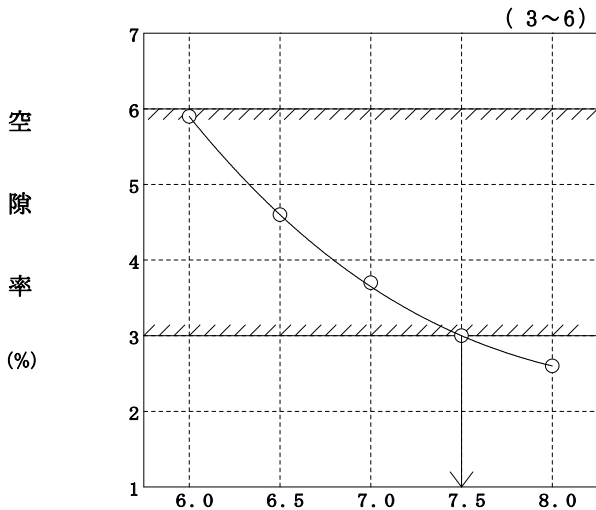
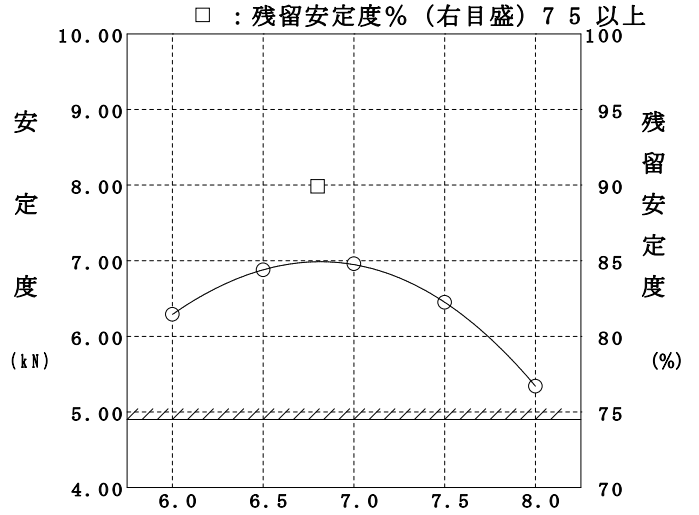
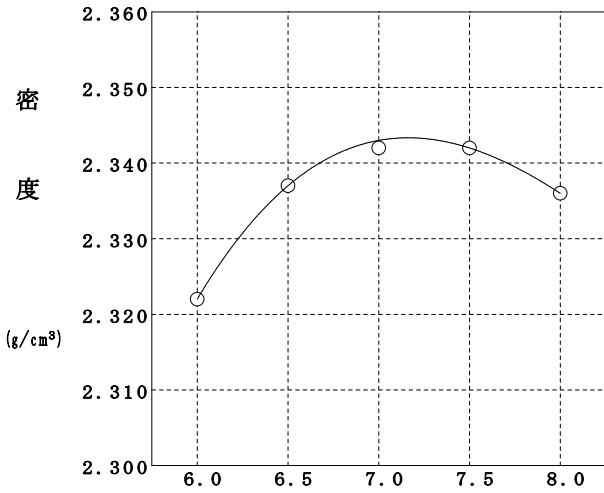
突 固 め 温 度 142 ℃ 突 固 め 回 数 50 回 力 計 の 係 数 (B) 0.1187

供 試 体 条 件	供 試 体 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	安 定 フ ロ ー 値 (kN/m)				
		ア ス フ ア ル ト 量 %	供試体寸法					空 中 質 量 (g)	水 中 質 量 (g)	表 乾 質 量 (g)	容 積 (cm ³)	密 度		ア ス フ ア ル ト 積 (%)	空 隙 率 (%)	骨 材 間 隙 率 (%)	飽 和 度 (%)	安 定 度			フ ロ ー 値 (kN)			
			厚さ (cm)									⑨ - ⑧	⑦ / ⑩					力 計 の 読 み 取 り 係 数 (A)	⑭ - ⑮ / ⑯ × 100			⑰ + ⑱	⑯ / ⑰ × 100	(B) × ⑰
			1	2	3	4	平均																	
標 準	1	6.0						1192.8	682.2	1193.7	511.5	2.332							56	6.65	29			
	2							1191.9	678.6	1193.0	514.4	2.317							51	6.05	30			
	3							1192.5	678.9	1193.6	514.7	2.317							52	6.17	27			
	平均												2.322	2.468	13.4	5.9	19.3	69.4		6.29	29	2169		
標 準	4	6.5						1200.2	686.8	1200.6	513.8	2.336							62	7.36	31			
	5							1199.4	685.3	1199.8	514.5	2.331							52	6.17	32			
	6							1198.8	688.0	1199.2	511.2	2.345							60	7.12	29			
	平均												2.337	2.450	14.6	4.6	19.2	76.0		6.88	31	2219		
標 準	7	7.0						1204.5	691.2	1204.8	513.6	2.345							60	7.12	33			
	8							1207.7	690.3	1208.0	517.7	2.333							55	6.53	36			
	9							1208.2	693.9	1208.5	514.6	2.348							61	7.24	34			
	平均												2.342	2.432	15.8	3.7	19.5	81.0		6.96	34	2047		
標 準	10	7.5						1213.9	697.8	1214.1	516.3	2.351							56	6.65	36			
	11							1214.9	695.2	1215.1	519.9	2.337							53	6.29	38			
	12							1212.9	694.4	1213.0	518.6	2.339							54	6.41	40			
	平均												2.342	2.415	16.9	3.0	19.9	84.9		6.45	38	1697		
標 準	13	8.0						1219.7	696.2	1219.9	523.7	2.329							46	5.46	46			
	14							1220.6	699.1	1220.7	521.6	2.340							44	5.22	42			
	15							1221.2	699.1	1221.4	522.3	2.338							45	5.34	44			
	平均												2.336	2.398	18.0	2.6	20.6	87.4		5.34	44	1214		

設計アスファルト量の決定

目的 配合設計 (室内)
 混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験年月日 2024年 2月14日
 試験者 大西 康夫



共通範囲 6.05 ~ 7.50 (%)

設計アスファルト量 6.8 (%)

ホットビンの合成粒度

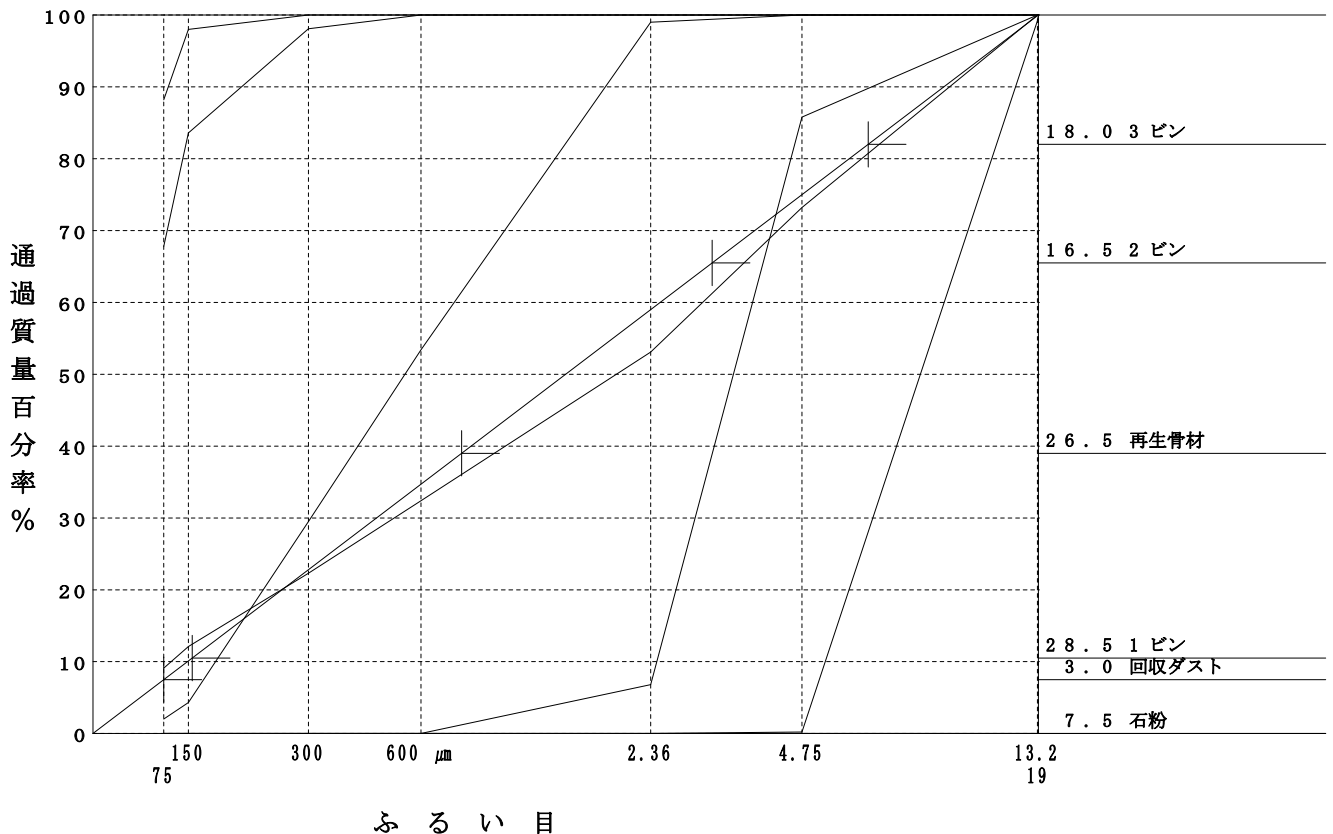
目的 配合設計 (現場)
 混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験年月日 2024年 2月14日
 試験者 大西 康夫

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)							設計粒度
	1ピン	2ピン	3ピン	4ピン	再生骨材	回収ダスト	石粉	
53 mm								
37.5								
31.5								
26.5								
19			100.0					100.0
13.2		100.0	99.2		100.0			99.9
9.5								
4.75	100.0	85.8	0.2		73.2			75.0
2.36	99.0	6.8			53.1			59.0
1.18								
600 μm	53.4				32.4	100.0		34.7
300	29.5				22.3	98.1	100.0	22.8
150	4.3				12.1	83.6	98.0	10.1
75	2.0				9.1	67.8	88.2	7.5

2. 使用予定骨材の配合比決定図



ホットビンの粒径加積曲線図

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

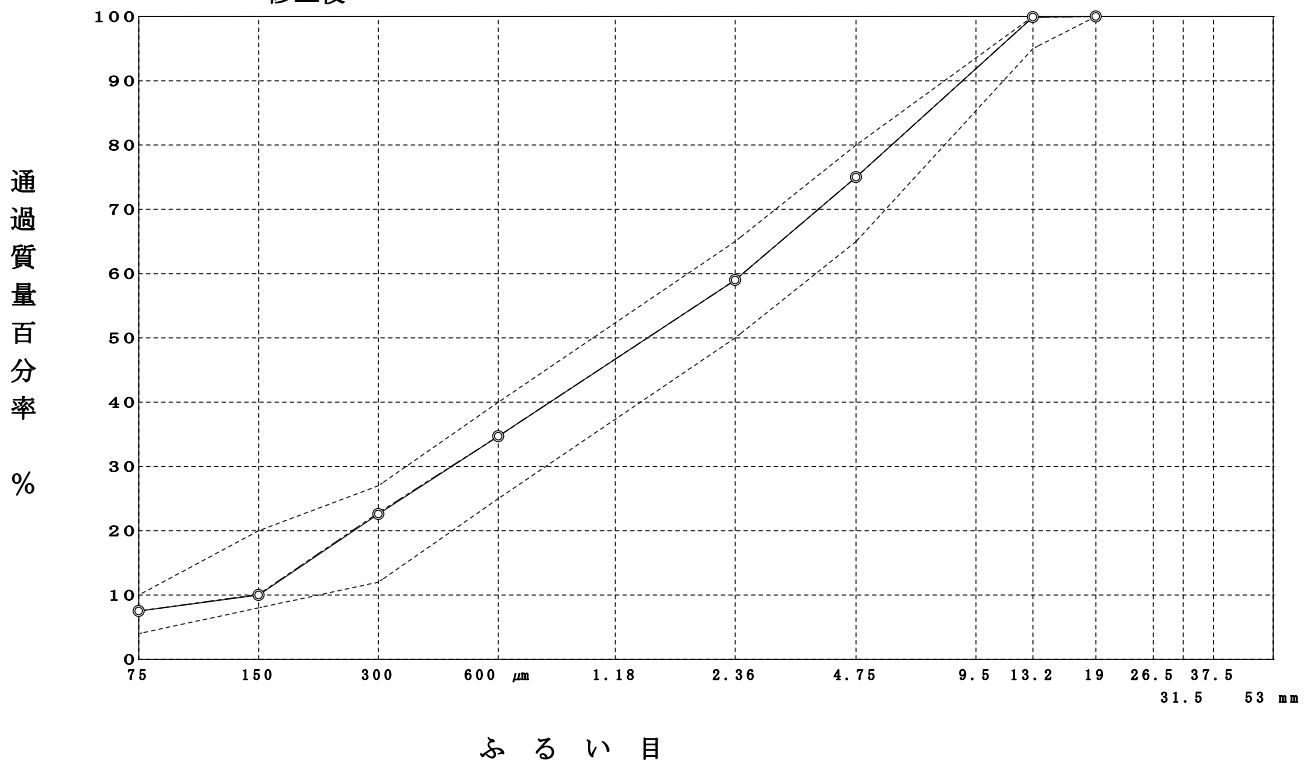
試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5				
19	100.0	100.0	100.0	100
13.2	99.9	99.9	99.9	95 ~ 100
9.5				
4.75	72.6	75.0	75.0	65 ~ 80
2.36	53.9	59.0	59.0	50 ~ 65
1.18				
600 μm	34.3	34.7	34.7	25 ~ 40
300	24.7	22.6	22.8	12 ~ 27
150	14.3	10.0	10.1	8 ~ 20
75	11.6	7.5	7.5	4 ~ 10

6. 粒径加積曲線図

..... 粒度範囲
 - - - - - 目標粒度
 ———— 修正後



理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)
砕石6号	11.9	11.90
再生骨材	50.8	53.45
砕石7号	3.3	3.30
砕砂	14.6	14.60
粗砂	9.7	9.70
細砂	8.1	8.10
石粉	1.6	1.60
計	100.0	102.65
設計針入度 1/10mm		
旧アスファルト量 (外割%)		2.65
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		8.10
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.21
再生アスファルト量 (%)	6.8	
再生アスファルト量 (外割%)	7.30	
旧アスファルト量 (外割%)	2.65	
再生用添加剤量 (外割%)	0.21	
新アスファルト量 (外割%)	4.44	

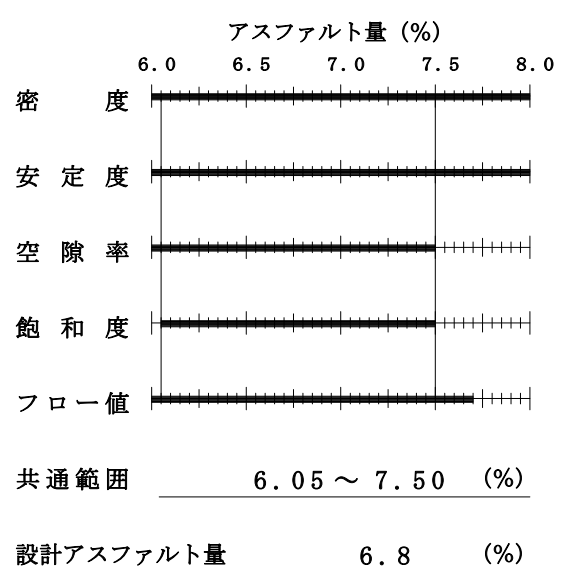
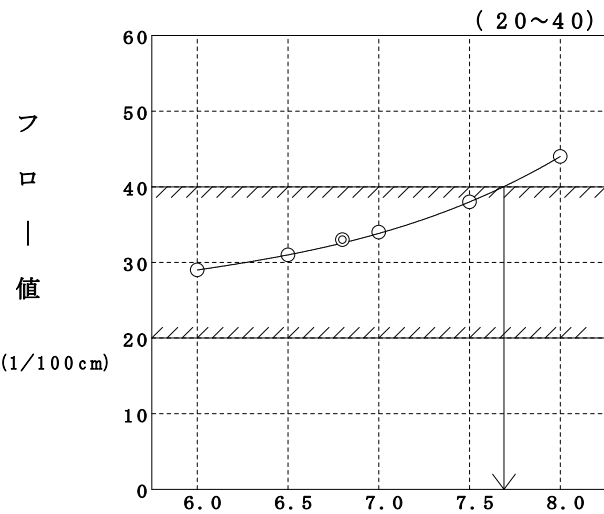
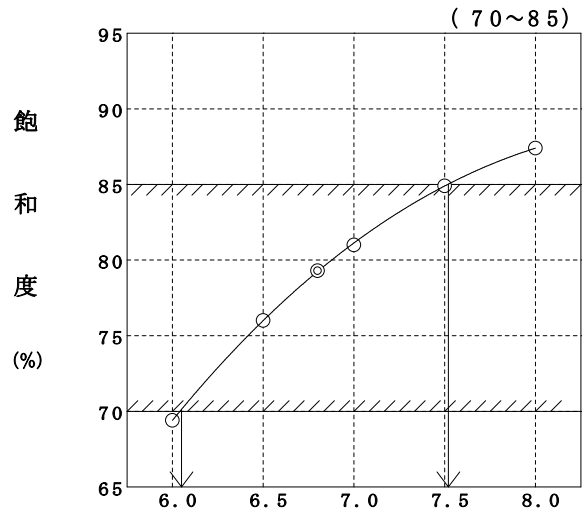
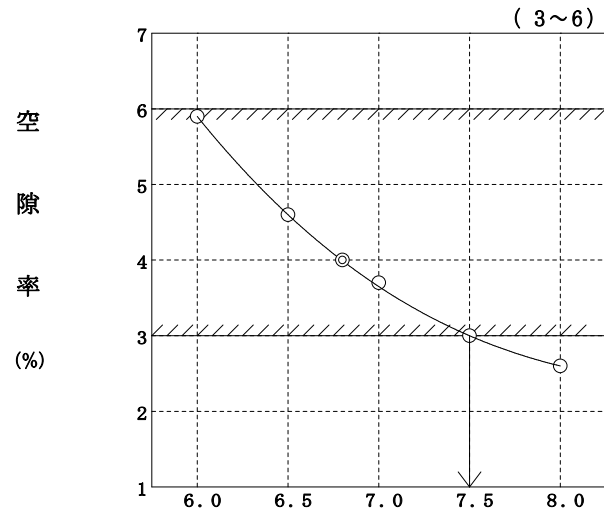
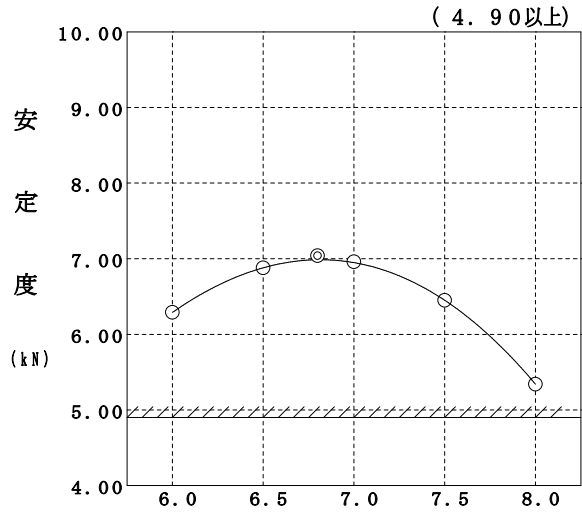
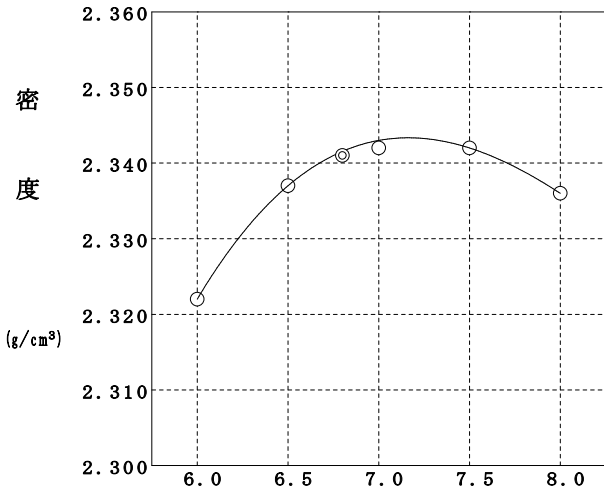
マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫



アスファルト量 (%)

現場配合の決定

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生細粒度アスコン(13)

試験者 大西 康夫

1バッチ 1000 kg

	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)
1 ビン	29.1	29.10	27.13	271	271
2 ビン	7.0	7.00	6.52	65	336
3 ビン	10.4	10.40	9.69	97	433
回収ダスト	0.6	0.60	0.56	6	6
石粉	2.1	2.10	1.96	20	20
再生骨材	50.8	53.45	49.81	500	500
旧アスファルト		(2.65)	(2.47)		
再生用添加剤		0.21	0.20		
新アスファルト		4.44	4.13	41	41
合計	100.0	107.30	100.00	1000	1000

※添加剤はドライヤ内添加のため
再生材の計量値に含まれます。

- (1) 混合温度・・・・・・・・混合温度は185℃を超えない範囲でアスファルトの動粘度
160～200cSt（セイボルトフロー秒75-95）
のときの温度範囲から選び 160℃とする。
- (2) 再生骨材加熱温度・・・・・・・・加熱温度による旧アスファルトの劣化を防ぐ目的に
より 140℃とする。
- (3) 骨材加熱温度・・・・・・・・混合温度より 50℃高くして 210℃とする。
- (4) アスファルト加熱温度・・・・・・・・混合温度と同じ 160℃とする。
- (5) 初期転圧温度・・・・・・・・転圧温度は再生アスファルトの性状により 130 ± 10℃とする。